

第10回小諸市廃棄物減量・再資源化等推進市民会議議事録

【日時】 令和5年3月22日（水）18時00分～19時30分

⇒18時00分～19時25分

【場所】 小諸市役所3階 第1・第2会議室

【出席者】：細谷会長、原委員、村田委員、依田委員、武者委員、佐藤委員、下崎委員、清水委員、塩川委員、事務局

【欠席者】：木内副会長、宇野委員、井出委員

1 開 会

2 挨拶

【会長】

3月になり、気候が暖かくなってきた。

また、新型コロナウイルスもだいぶ落ち着いてきた。

経済が動いて来るとごみも増えると思うので、ごみの減量対策についてしっかりと考えていきたい。

3 会議事項

(1) 資源物回収ボックスについて

【事務局】

⇒資源物回収ボックスの他市町村の実施状況、事務局が考える実施方針等について説明し、委員の意見を求めた。

○概要

まず、前回市民会議で意見が出た『他市町村の資源回収ボックスの実施状況』を確認するため、神奈川県横浜市、神奈川県鎌倉市、長野県松本市の3市に連絡し、質疑を行った。

質疑の結果、「資源物回収ボックスの設置場所は、市の関連施設の敷地内で、施錠設備付きのボックスを設置している。平日の昼間の時間帯に回収ボックスを開放しており、夜間や休日は施錠されていて使用できない。回収ボックスの管理は、市が行っており、出勤した市職員がボックスを開錠し、退勤する際に施錠するという流れである。回収ボックスに集まった資源物は、市の直轄部隊が回収するか、業者に依頼して回収

してもらうかのどちらかである。業者に回収を依頼した場合、業者に運搬費と委託費を支払い、資源物の売買利益は市に入る。資源物回収ボックスの設置により、ごみ減量につながっているかは不明である。しかし、回収ボックスから多くの資源物が回収されているため、リサイクル率を向上させる効果はあると考えられる。ごみが不法投棄される等の大きな問題も特にない。」旨の回答を得た。

資源物回収ボックスを設置すれば、多くの資源物がリサイクルでき、ごみの減量につながっていくのではないかと思料される。

また、昼間のみの回収にすれば、ごみを捨てられる等の問題は起こらないと考えられる。

次に、『資源回収報奨金交付制度』についてである。

小諸市では、資源回収を行った団体に報奨金を交付している。

自身で資源回収業者に持ち込んだ場合は、1kgにつき6円、回収業者が収集運搬した場合は、1kgにつき8円となっている。

資源回収報奨金交付制度は、資源回収業者に持ち込んだ際に売買利益があり、さらに市からも報奨金が出ている状況で、「二重に利益が出ている」という意見があるため、制度の必要性についての検討も必要であると考えられる。

制度を廃止し、年間約600万円取っている予算で、各区の公民館等に資源物回収ボックスを設置ということもできるのではないかと考える。

最後に、事務局が考える『資源物回収ボックスの実施方針』である。

回収品目は、古紙類、古着、缶の3種類で、平日の昼間のみ市の関連施設で回収する。

回収ボックスの設置、管理・運営は市が行い、資源物の収集運搬のみ業者に委託する。

最初は、数箇所回収ボックスを設置し、実証実験を行う。

資源物の売買利益等を示した上で、民間企業に新規回収ボックス設置の募集をかけ、徐々に市内に回収ボックスを増やしていくという方向性で考えている。

※質疑応答、意見

【委員】

横浜市等の他市町村の話だと、リサイクル率の向上には役立っているが、ごみの減量につながっているかは分からないとのことであった。

リサイクル率が向上するだけでなく、ごみの減量につながらないと意味がないと思う。

前回会議で話があった静岡県の例だと、業者がボックスの設置、資源物の回収等の管理や運営を行っており、売買利益は全て業者のものになっている。

全て業者が行えば、回収ボックスに入った資源物の数値は、市町村のごみの数値には計上されない。

しかし、市町村がボックスの設置、管理等を行い、収集運搬のみ業者に委託した場合は、市町村のごみの数値に資源物の重量が入ってくる。

ごみの減量につなげるためには、全て業者にやってもらう方が良いのではないかと考える。

【事務局】

業者に設置から管理・運営まで全てを実施してもらえれば、小諸市のごみの数値には計上されないで、ごみの減量につながる。

しかし、業者の立場からすれば、資源物回収ボックスを設置することにより、どれくらいの利益があるのかが分からなければ、実行に移すのは難しいのではないかと考える。

このような理由で、まずは、小諸市でボックスを設置して、利益がどれくらい出のかを数値で示した上で、業者に募集をかけるという流れが良いのではないかと考えた。

いずれは、業者に設置から管理までの全てを実施してもらうようにしたい。

【委員】

仮に小諸市がボックスを設置して、管理・運営を行ったが、思うような結果が出なかった場合、その先がなくなってしまう。

最初から、リサイクル業者等を集めて、資源物回収ボックスの話をして、募集をかけた方が良いのではないかと思う。

【事務局】

業者に対する提案の仕方により、手を挙げてくれる業者が出てくるかもしれない。

実施方針について、再度検討したい。

【委員】

先程、事務局から話があった他市町村の資源物の収集量を見ると、多くの資源物が収集されており、大きな利益になっていると思料される。

横浜市や松本市は、人口が小諸市より多い。

小諸市は約4万人の人口の市なので、どれくらいの利益が出るかは分からない。

資源物回収ボックスの設置について、前向きに検討してくれる業者がいるのかという問題もある。

現在、古紙類の売買価格はいくらくらいなのか。

【事務局】

古紙類の売買価格の相場は変わるが、小諸市の現在の相場は、新聞紙が1kgあたり約20円(1tあたり約2万円)、雑誌・雑がみが1kgあたり約13円(1tあたり約1万3000円)、段ボールが1kgあたり約13円(1tあたり約1万3000円)である。

古紙類等の売買価格は、取り引きをする場所によって変わってくる。

静岡県は、製紙産業が盛んなので、古紙類の回収に積極的な業者がたくさんいるのだと思う。

小諸市内や近隣市町村に製紙会社がないので、どうしても輸送コストがかかってくる。

輸送コストがかかると売買利益が少なくなるため、この点で、業者の小諸市での資源物回収は不利な部分があると考えられる。

【委員】

これまでの話で、資源物回収ボックスの設置によるごみの減量効果は小さいかもしれないと感じた。

資源物回収ボックスの設置により一番効果がでるのは、市民の利便性の向上になるのではないかと考える。

【事務局】

市民の利便性の向上という点では、月に1～2回しかない集積所からの収集以外に資源物を出せるので、効果はあると考える。

先日、浅麓工業企業組合に委託している「家庭系一般廃棄物収集運搬業務」に同行した。

パッカー車に同乗し、各集積所を回ったが、燃やすごみ指定袋内に大量の古紙類が混入しているのが認められた。

古紙類の収集日が数週間後のため、家に溜めておくのが面倒で、燃やすごみ指定袋に古紙類を入れる人も多いと考える。

資源回収ボックスを設置することにより、燃やすごみ指定袋の中に古紙類を入れずにボックスに持っていく人が増えると思料される。

このような理由で、市民の資源物排出の利便性の向上だけでなく、燃やすごみに混入する古紙類の削減、燃やすごみの減量につながると考えている。

【委員】

古紙類を捨てられる機会が増えれば、燃やすごみに古紙類を入れる人は減るのではないかと考える。

1ヵ月等の長い間古紙類を捨てられないとなると、週1回は収集がある燃やすごみに入れる方が楽である。

資源物回収ボックスがあることで、古紙類を捨てる場所が増えれば、燃やすごみに混入する古紙類減少の効果はあると思う。

また、資源回収報奨金交付制度の関係で、各区が報奨金に魅力を感じ、資源回収を積極的に行う意欲になっているのではないかと思う。

仮に資源物回収ボックスを設置した場合、古紙類を捨てられる場所が増えるので、各区に入る利益が減る可能性がある。

資源回収報奨金交付制度の利用状況は、どれくらいあるのか。

【事務局】

資源回収報奨金制度の利用状況は、月によって増減があるが、毎月、約30団体に報奨金を交付しており、報奨金の交付金額は、毎月、合計で30万円前後である。

ゴールデンウィーク後や年末年始前になると、申請数や資源回収量が増え、約40団体に合計60万円前後の報奨金を交付している。

年間でみると、毎年、合計450万円前後の報奨金を交付している。

資源回収報奨金交付制度の申請がある団体は、各区やPTAが大多数である。

【委員】

小諸市内に区は、68区あるが、何区から資源回収報奨金交付制度の申請があるか。

【事務局】

区で申請があるのは、約20区である。

毎月のように申請が来る、資源回収に積極的な区は、10区くらいである。

資源回収を行っていない区が大半であると思われる。

【委員】

資源回収を積極的に行っている区が10区程であれば、資源物回収ボックスを設置しても問題ないのではないかと思う。

【委員】

荒町区では、2カ月に1回資源回収を行っている。

資源物の売買利益と小諸市からの報奨金を合わせて、年間数十万円の収入になっている。

荒町区の大きな収入源は、資源回収しかない。

荒町区の区費は、68区でも安いと思料されるが、区費を上げずにいられるのは、資源回収による収入のおかげである。

他の区でも、資源回収による収入で、様々な活動ができている区が多いと思われる。

この会議の一番の目的は、廃棄物の減量なので、資源物の売買利益のことだけでなく、減量の面からも考えていかなければならないと考える。

【委員】

既に積極的に資源回収を行っている10区からすれば、資源物回収ボックスの設置は、小諸市が利益を得るためにやっていると考えられるかもしれない。

資源物回収ボックスの影響で、今まで自分達の区に入ってきた資源回収の収入が減り、小諸市の収入になれば、このように考える市民も出てくると思料される。

一方で、業者に設置から管理・運営を全て行ってもらえれば、市民に対して違う説明ができるのではないかと考える。

業者が資源物の売買利益と一緒にごみの数値を持っていってくれば、それ自体でごみの減量と言えるのではないか。

【委員】

ごみの減量という観点だと、業者が全てを行えば、確実にごみの数値は減る。

業者の利益という話にもなっているが、現在は儲けるためだけに行動する時代ではないと思う。

SDGS 等が取り上げられている時代なので、業者に全てを行ってもらうのであれば、業者に対して「社会貢献のため」という説明を行っても良いと思う。

利益のことだけに目を向けるのではなく、「持続可能な社会を目指すために協力して欲しい」と業者に説明すれば、賛同してくれる業者はあると思う。

また、静岡県の場合もあるように全国で資源物回収ボックスが成立しているのであれば、赤字にはならないのではないかと思料される。

小諸市が今後の社会のために舵を取ってもらえば良いと考える。

【委員】

基本的な質問になってしまうが、これまでの集積所での資源物の収集をやりつつ、資源物回収ボックスでの回収も同時に行うという認識でよいのか。

【事務局】

月に2回程ある集積所での収集も行い、別に平日の昼間の時間帯に出せる資源物回収ボックスでの回収も行うということである。

【委員】

資源物回収ボックスの利用可能時間が平日の午前9時から午後5時までだと、昼間仕事をしている土日休みの人は、利用することができないのではないかと考える。

市の職員がボックスを管理するのであれば難しいかもしれないが、利用可能時間を延ばす等の検討が必要であると思う。

しかし、資源物回収ボックスの設置をすることは良いことであるとする。

【委員】

富山県に行く機会があり、とても大きな資源回収場所を発見した。

大きなコンテナが一面に置かれており、「資源回収場所」と書かれた看板が設置されていた。

ここは土日だけ利用可能になっていたもので、平日仕事の人でも利用できる。

このように様々な方向から考えて良いのではないかと。

【委員】

一般の人たちが利用しやすいのは土日だと思うので、利用可能日時についても検討いただきたい。

【委員】

インターネットで、長野県内の製紙工場を調べたら、7箇所出てくる。

その中に松本市や塩尻市、長野市の製紙工場が出てくる。

松本市は、近くに製紙工場があるので、静岡県のように資源物回収ボックスを管理・運営できているのかもしれない。

小諸市の場合、松本市や長野市の製紙工場に資源物を運ぶと、輸送コストがかかる。

輸送コストがどれくらいかかるのか、近くに処理できる場所があるのか等を調べてみるのが良いと思う。

輸送コスト等がかかったとしても、利益がでるのであれば、業者も手を挙げてくれるのではないかと。

【委員】

関連業者に確認してみてもどうか。

業者に対して、実際に小諸市内で資源物回収ボックスを設置して、管理・運営をすることができるのかについて聞いてみるのが良いと考える。

【事務局】

小諸市内のリサイクル業者等に確認してみる。

【委員】

ごみ減量の数値目標は、統計からどれくらい減らせるかだと思うので、業者に全てを行ってもらえれば、数値目標を考える上でも有効と考える。

【委員】

業者がボックスの設置から管理・運営まですべてを行ってくれば、小諸市の統計からごみの数値は減る。

今回事務局から提案があった市町村が主体となる案以外に、業者が全てを行う案についても検討し、再度提案をしていただきたい。

(2) ごみ指定袋（レジ袋タイプ）について

【事務局】

⇒第7回会議で議題にあげた「ごみ指定袋(レジ袋タイプ)」の他市町村の実施状況等について説明し、委員の意見を求めた。

○概要

指定ごみ袋(レジ袋タイプ)を実際に作製し、販売している自治体に連絡し、状況を確認した。

今回は、小諸市とおおむね同じ規模の自治体である長崎県五島市、北海道幕別町の2市町に連絡し、質疑を行った。

質疑の結果、「ごみ減量や海洋プラスチック問題対策の取り組みとして、レジ袋タイプのごみ指定袋を作製し、コンビニエンスストアやスーパー等で1枚ずつ販売した。収集時の問題等は特にはない。レジ袋1枚分のプラスチック抑制にはつながっていると思うが、ごみ減量の効果はあまり感じられない。」旨の回答を得た。

レジ袋タイプのごみ指定袋を作製するにしても実証実験を行ったほうが良く、ごみ袋のデザインや販売する店舗の選定等検討すべきことが多々あると考える。

※質疑応答、意見

【委員】

2市町の話聞き、ごみの減量につなげるのは難しいと感じた。

今後、レジ袋タイプのごみ指定袋を作製し、実証実験を行う予定なのか。

【事務局】

商工会議所等の団体に話をしてみる予定なので、作製するかどうかについても検討したい。

【委員】

いろいろな意見があると思うので、関連団体等に相談し、検討していただきたい。

4 報告事項

(1) 令和5年度小諸市・ごみ資源収集カレンダーの配布について

【事務局】

2月下旬の区長配布で、「令和5年度小諸市・ごみ資源収集カレンダー」を配布した。

第9回市民会議でも説明したように、今回は、アパート等の区未加入者を含めた全世帯配布となる。

数箇所副区长から、「区未加入者を把握していないから全戸配布は難しい」、「別荘等にもほぼ全て配布できた」等の連絡をいただいた。

連絡があった区以外の実施状況は不明であるが、新しい試みを実施したので、承知いただきたい。

【委員】

各区に対して、ごみカレンダーを全戸配布できたか調査してみてはどうか。

68区にアンケートを配布する等して、結果がどうだったか検証する必要があるのではないかと考える。

【事務局】

今後、全世帯配布の実施結果について、各区にアンケートを取り、確認したい。

(2) 事業系一般廃棄物の集積所排出について

【事務局】

小諸市では、中・小規模の事業者にとっては、集積所を使った事業系一般廃棄物の排出を許可している。

この制度は、「店舗兼住宅で、家庭から出たごみか、事業で出たごみかの区別が難しい」、「廃棄物処理事業者と単独で契約するにはごみの量が少ない」等の問題に対応するものである。

家庭系ごみ指定袋に事業系一般廃棄物を入れて、集積所に出すことができるので、中・小規模事業者が事業系一般廃棄物を排出しやすくなっている。

このとき一般家庭からの廃棄物と区別するため、専用の事業系ステッカーを家庭系ごみ指定袋に貼付し、排出する決まりとなっている。

事業系ステッカーは、生活環境課窓口において、1シート(20枚)、1,000円で販売している。

1年ごとに事業所から申請をしてもらい、登録が更新されていく。

缶・びんや古紙類を集積所に出す場合は、登録更新時に年額で支払いをしてもらっている。

この制度は、かなり前から実施されており、登録事業所数は、平成22年には477

事業所あったが、令和4年度は212事業所となった。

現在、新規受付を行っておらず、継続のみである。

毎年購入できる事業系ステッカーのシート数(24シート)は決まっているので、足りない場合は、事業系燃やすごみ専用指定袋の購入に変更してもらうようにしている。

制度を利用する事業所が少なくなれば、いずれは廃止し、事業系燃やすごみ専用指定袋に統合していく予定である。

【委員】

市役所で全ての中・小規模事業者を把握はできないので、事業所からの申請に任せていると思う。

集積所を見ていると、事業者が事業系ステッカーを貼付せずにそのまま家庭系ごみ指定袋で排出しているのを見かけることがある。

集積所に事業系ステッカーを貼付していない事業者の家庭系ごみ指定袋があった場合、衛生委員から市役所に報告がいくシステム等があれば良いのではないかと考える。

何か公平性の観点から対策等できないか。

【事務局】

実際に年に2回ほど、衛生委員の方から「事業系ごみが家庭系ごみ指定袋で排出されている」という連絡がくる。

現場を確認し、明らかに事業者がそのまま排出していた場合は、事業者に指導を行っている。

今後、対応や対策について考えていきたい。

(3) ごみ指定袋の値上げ及びサイズ変更について

【事務局】

令和5年4月1日からごみ指定袋が値上げとなる。

値段については、広報こもろ令和5年4月号で広報している。

原材料価格の上昇やエネルギー価格の高騰により、ごみ指定袋の製造価格が上がってしまった影響である。

また、生ごみ指定袋(中)と(小)のサイズを変更したので、承知いただきたい。

【委員】

燃やすごみの中の生ごみを減量することについて、知り合いに意見を聞いてみた。

知り合いは、「生ごみの指定袋が燃やすごみ指定袋に比べて高い。生ごみを捨てる時、燃やすごみ指定袋に入れた方が安い」と言っていた。

燃やすごみ指定袋と生ごみ指定袋の10あたりの値段を計算すると、生ごみ指定袋は、燃やすごみ指定袋より5倍高い。

5倍の値段がかかるのであれば、燃やすごみ指定袋に生ごみを入れてしまう人が出てしまうのではないかと思った。

燃やすごみから生ごみを減らしたいのであれば、値段についても今後の課題として検討いただきたい。

【委員】

生ごみ指定袋は、25枚一組で、その他の燃やすごみ指定袋等は、10枚一組である。

独身者や一人世帯は、25枚使い切るのは時間がかかる。

生ごみ指定袋を使いやすくする観点で、指定袋の販売単位についても検討いただきたい。

(4) 家庭系一般廃棄物収集運搬業務実態調査の実施について

【事務局】

令和5年2月14日に、家庭系一般廃棄物収集運搬業務を委託している浅麓工業企業組合の収集業務に同行した。

実際にパッカー車に同乗し、燃やすごみ指定袋、生ごみ指定袋を回収した。

燃やすごみ指定袋内には、古紙類や生ごみが混入しており、分別ができていない状況が認められた。

また、収集日以外の指定袋が出される、他市町村のごみ指定袋で排出されている等のルール違反もあった。

ごみを集積所から収集し、自らの目で状況を確認することはとても大切であると感じた。

これからごみ減量対策を考える上で現場を見ることは重要だと思うので、定期的に家庭系一般廃棄物収集運搬業務実態調査を実施したい。

【委員】

添付してもらった資料の写真をみると、分別ができていないのが分かる。

今後、広報誌等で、広報していくことはできないか。

【事務局】

広報こもろで定期的に「違反物の混入記事」や「適正な分別方法の記事」を掲載している。

今後も広報を続け、適正分別を呼び掛けていきたい。

【委員】

分別をせずにごみを捨てている人は、軽い気持ちで出していると思う。

分別ができていないごみや汚いごみは、他の誰かが分別してくれているということを考えられていない。

ごみを片づけてくれている廃棄物収集業者や各区の衛生委員への思いやりが重要である。

小学生がクリーンヒルこもろを見学しているが、ごみの適正分別は人権教育の1つではないか。

4月に各区の区長が変わると思うので、クリーンヒルこもろを見学してもらう等して、各区に実態を知ってもらうのも良い方法だと思う。

市民にごみ処理の考え方を変わってもらえるように行動する必要があるのではないかと考える。

(5) クリーンヒルこもろの処理実績について

【事務局】

クリーンヒルこもろが運営を開始した平成27年度1月から令和4年度2月末時点までのごみの搬入量の経年変化について表とグラフにまとめた。

ごみの搬入量は、平成27年度が7357t、令和3年度が7928tと年々徐々に増えてきている。

令和4年度3月の数値がまだ確定していないが、令和3年度と令和4年度を比べて、ごみの搬入量はほぼ横ばいと思料される。

この数値を減らしていかなければならないので、各種ごみ減量対策を考え、実行していきたい。

(6) その他（次回日程等）

- 第11回市民会議 令和5年5月23日（火）18時～
- ごみゼロの日活動 令和5年5月28日（日）

【事務局】

5月30日は語呂合わせで「ごみゼロの日」となっている。

今年は、5月28日の日曜日にごみ拾い、クリーンヒルこもろの見学会を実施しようと考えている。

詳細については、事務局で話し合い、決めていく。

活動の際は是非ご協力いただきたい。

【委員】

浅麓環境施設組合で生ごみ処理の流れを見てもらうのも良いのではないかと考える。

施設見学は、1回だけでなく、複数回行うことも大切だと思う。

いろんな案を考え、実行していただきたい。

【事務局】

昨日、3月21日に小諸市市民交流センターのステラホールで、「ゼロカーボン・環境フォーラム」を実施した。

小諸市民の方等、約60名に参加いただき、ごみの減量についても説明した。

不適切な分別状況が分かる写真等をスクリーンに映し、参加者にごみの分別を促した。

引き続き、様々な方法を考え、発信していきたい。

5 閉 会